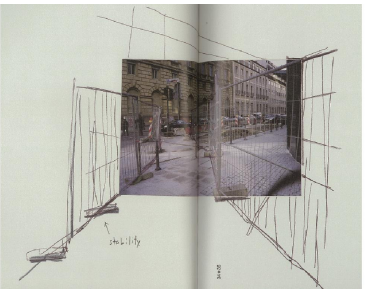
問題発見型／解決型学習(FBL/PBL) テーマ提案（学生募集内容）

テーマ名称	地面とデザインについて考える
実施責任者	デザイン学ユニット・特定助教　北 雄介 経営管理大学院・教授　松井 啓之
実施協力者	未定（必要に応じて適宜協力者を招聘し、議論に加わってもらう。教員の他、不動産の実務家やアーティストなどを検討している）
テーマの背景	地面は続く、どこまでも続く。しかし建築分野では「敷地」や「床」、土木工学では「道路」や「河川敷」、経済学では「土地」、地理学では「地形」「地層」といったように、各分野では地面概念の一部だけを切り出して取り扱うのが常であり、地面という言葉自体のアカデミックでの登場も少ない。 しかし望ましい地面デザインというものがあるとすれば、それは多様な知の融合を要求すると考えられ、本学「デザイン学」の取り組むべき新しい探究対象となりうる。機能、自然と人工、所有と利用、認識、身体との関係、マクロとミクロ、デザイン行為とその重ね合わせ、などさまざまなトピックが浮上するだろう。 なお本実習では、特段の社会問題をあらかじめ想定することはしない。地面に対してどのような問題や可能性を見出すかというプロセスを含め、考える。
実習の概要	本実習では、地面をさまざまな人々の重ね描く一枚の絵として見立て、そこにデザインの痕跡を見出すことで、地面のデザインについて思考する。 導入として、これまでに実施責任者が撮り溜めた興味深い地面の写真を見ながら議論する。たとえば下の写真の地面はどのような意図でデザインされ、また今なぜこのような状態なのだろうか？ここでは「デザイン」という概念そのものも議論の対象となるであろう。たとえば一番右の写真の男性の行動は地面のデザインと言えるのか？土地を 4,000 万円で売却することや道にガムを吐き捨てることはどうか？ 次に京都市内におけるフィールドワークを行なう。手法として、感じたことをその場で地図に書き留める「Walk & Write Method」を用い、同時に写真の撮影も行なう。そしてそこで抽出された地面に関する問題や可能性について、KJ 法などを用いて整理し、取り組むべきテーマを議論する。そして撮った写真への手描きフォトコラージュによって地面デザインのアイディア出しを開始する予定である。  左：Walk & Write Method 香港にて 右：川俣正「通路」より

	その後は、活発な議論や検討作業を期待する。デザインプロセスは柔軟に展開されるべきものと実施責任者は考えているので、方法や論点の導入、他の教員や専門家の参加などについては議論の進行に応じて検討したい。最終成果としては地面についての着眼点とデザイン方法を提示してもらいたいが、地面デザインに関する論考執筆や技法開発なども歓迎する。
実施計画、実施場所	実施場所は履修者のメンバー構成などにより決定する（KRP、吉田、桂）。 詳細は実施計画を参照。
履修条件	特になし。地面そのものを専門とする学生はそうはいないと思われるが、しかし地面は何かしら各分野と関連するものと考えている。たとえば情報学なら情報を提示するキャンバスとして、機械工学なら人工物の動くフィールドとして、建築学なら設計対象の一部として、心理学なら我々人間が多様なものごとを感じ取る場として、経営学ならビジネスマネジメントの対象として、地面を捉えられるであろう。専門分野に留まらない個人的な興味も大いに反映していただきたい。 地面、そしてデザインというよくわからない包括的概念について半年間考えてみてもいいという同志に、是非参加いただきたい。
募集人数	３名以上、５名以下
募集締切	10 月 10 日（土）
応募資格	特になし。応募多数の場合には、デザイン学本科生を優先する。
応募方法	以下の項目を記載したメールを送付。（予科生、本科生は別途指示に従うこと） To: yusuke.kita@design.kyoto-u.ac.jp CC: fblpbl-application@design.kyoto-u.ac.jp Subject: [FBL/PBL 参加申込] 地面とデザインについて考える 本文: 氏名、所属組織、役職・学年、メールアドレス、Web ページ、テーマ名称、背景知識・専門性、応募の動機、その他
履修者の決定	10 月 17 日（金）までにメールで参加の可否を通知。
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法	・フィールドワーク（Walk & Write Method） ・ブレインストーミング、KJ 法 ・手描きフォトコラージュ その他、理論や手法は適宜導入する。
理論や手法の学習方法	・Walk & Write Method については実施責任者から導入する ・今和次郎・藤森照信「考現学入門」（執拗で多角的なフィールドワーク） ・川俣正「通路」（手描きフォトコラージュによる地面デザイン） ・J.J.ギブソン「生態学的視覚論」（面に関する実験や考察の先駆例） その他、書籍や論文などは適宜紹介する。
実習の公開方法	最終成果のポスター作成、論考・論文執筆など。web にも適宜公開。
成績評価方法	課題への取り組み方の総合評価 7 割、レポート 3 割
特記事項	なし

実施計画

コマ	日程	場所	実施内容
1,2	未定	未定 （KRP or 吉田 or 桂）	話題提供とディスカッション ・履修生に自らの関心や研究について紹介いただく ・実施責任者の撮り溜めた地面の写真を見ながら議論 ・「デザイン」という概念についての議論 ・どこの地面を見れば面白いかを議論
3,4	未定	京都市内	フィールドワーク。Walk & Write Method を用いる（地面を執拗に見て、感じたことや発見したことを記録する）
5,6	未定	未定	フィールドワーク結果のレビュー、論点の洗い出し、手描きフォトコラージュによるアイディア出しなど
7,8	未定	未定	未定
9	未定	未定	中間発表とディスカッション
10,11	未定	未定	未定
12,13	未定	未定	未定
14	未定	未定	プレゼンテーション準備
15	未定	未定	最終発表とディスカッション
※予定はフレキシブルに組み立てる。たとえばヒアリングや、京都以外の都市でのフィールドワークなどを実施することも可能。またコマ外での自発的な活動も奨励する。			

※KRP: デザインイノベーション拠点（京都リサーチパーク 9 号館 5 階）